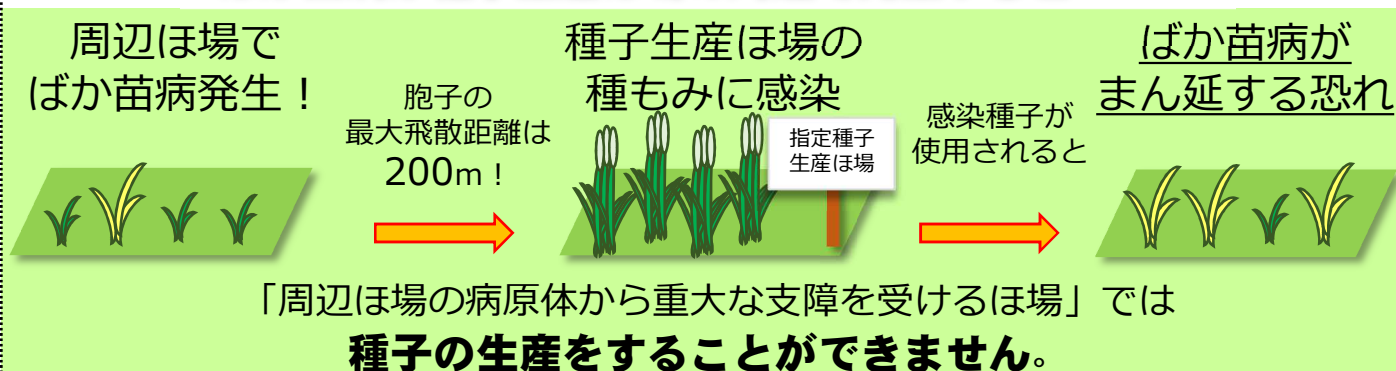


イネばか苗病の撲滅にご協力願います

最近、県内において**イネばか苗病の発生が増えています**。
特に種子生産ほ場の周辺で発生した場合、
その種子生産ほ場から**採種することができなくなる**ため
優良な種子の生産・供給が危ぶまれています。

ばか苗病が種子生産ほ場の周辺で発生すると・・・



**種子生産ほ場の近くで
水稲（飼料用米を含む）を作付する生産者の皆様へ！**

優良な種子の生産が継続できるようイネばか苗病の**適切な防除**と
種子生産者による優良種子生産の取組に
ご理解とご協力をお願いします

▼発生を防ぐため▼

- ☑毎年**種子更新**を行いましょう。
- ☑種子消毒には**効果の高い薬剤**を使用しましょう。
 - ・温湯消毒の場合は、**マニュアル**を遵守しましょう。

▼発生株を見つけたら▼

- ☑すぐに**ぬき取り**ましょう。
- ☑籾やわら等が伝染源となるため**作業場は清掃**し、**苗箱を消毒**ましょう。

種子消毒のポイント イネばか苗病防除には種子消毒が有効です

▼薬剤による消毒（薬液の温度は10～15℃を目安に調節を！）

●薬剤吹付種子（消毒種子）の場合●

浸漬は種子 1 kg に対し水 4 L（容量比 1 : 2）とします。

薬剤の効果を高めるために、**はじめの3日間は水を交換せず**、その後も浸種が完了するまで、水の交換は2～3回程度とします。

●未消毒種子又は自家採種種子の場合●

種子を薬液に浸漬する際には**よくゆすり**、薬液が種子粉袋の中心部まで十分に行き渡るようにします。

▼温湯消毒

装置のマニュアルに従い、温湯消毒を行います。

処理開始時の急激な温度低下や中心部の温度不足により、十分な効果が得られないことがあります。**1回の処理量は適量**とし、**浸漬直後に網袋をゆすり**、中心部まですばやく温度を上昇させます。

◆防除効果を高めるためには**生物農薬との併用処理も有効**です◆

イネばか苗病とは？

- ・イネばか苗病は糸状菌（カビ）である *Fusarium fujikuroi* によって引き起こされる病害で、**種子伝染**します。
- ・育苗時に保菌種子が混入していると、育苗工程の浸種→催芽→出芽時に**菌が放出され**、**健全種子に伝染**して発生が多くなります。

イネばか苗病の主な病徴

- ・育苗期では第2葉期以降に症状が現れ、**葉や葉鞘が伸びて徒長**し、色が淡くなります（写真1）。
- ・本田に移植後も、葉鞘や節間が徒長し、**黄化**します（写真2）。
- ・発病株はやがて枯死し、**株元に多量の胞子を形成**して伝染源となります（写真3）。
- ・胞子は風に乗って飛散して**開花期の穂に付着**し、**種もみが感染**します。



育苗中の徒長苗
（写真1）



圃場での発病株
（写真2）



株元に形成された胞子
（写真3）